

時間は人間にとって 水の次に大事という時計師

以前はドイツで「一点モノ」のクロックを製作していたレデラー氏。全てのコンポーネントをゼロから製作して一台あたり数億円、というクロック製作を止め、スイスに移り腕時計の世界に進出し10年ほど。その理由をこう語る。

「ユニーク・ピースでやっていった世界を、もっと多くの人々と分かち合いたいという動機ですね。時間を見ることは人間の楽しみのひとつで、時間を観察することは面白いこと。今日、自分の時間を持つことは貴重ですから」

レデラー氏が腕時計の世界に時計師として見出したブレイクスルーは商機だけではなく、彼の時間哲学に関する確信に基づいている。

「ムーブメントやメカニズムの動きがすべて見えるクロックとちがって、腕時計はスケルトンでもない限りダイヤルの下に隠れている。だからクロックと腕時計では、時間表示のアプローチがまったく異なると思います。時間は人間にとって水の次に大事なもので、でも人間の上に来ちゃいけないもの。例えば私が日本に降りた時、もし付けている時計が壊れていたら、自分の時間が吹き飛んだようなもので、これから過ごす旅行中の時間が台無しと感ずるかもしれない。もちろん時間を知らずともどこでも可能ですが、それはまるで借り物の時間で、自分で過ごしている感覚ではない」

実際、彼が提案している時間表示には、プラネタリーシステムという、通

常な文字盤にあたるディスクや、さらにダイヤル上のディスクが回るものもあり、針が数字を指し示す従来のな表示とは根本から異なっている。

「昔の時間がどんな風かといえば、暑いとか寒いという季節や天体の動きでむしろ感じるものだったと思います。でも12に区切ったダイヤルと針から時間を読むのは、後天的に習ったことではないでしょうか。少なくとも私は学校で習った時、難儀しました(笑)。時間の表示は、誰かが正解を持っているわけじゃない。例えばミニッツ・リビーターは聴覚を通して時間が読める仕組みで、レトログラードは時間が一方方向にしか進まない仕組み。プラネタリーシステムは、宇宙や星の動きに似せたというより、もっと直観的に時間を感じられる表示を探ったら、そうなった。通常の文字盤配置はベースとしてありますが、時間をオプザバーとして眺めるのではなく、時間の立体的な動きの中にダイブする感覚、自分の時間と一体になる感覚というか……」

メカニズムについてもいたずらに複雑さを求めたのではなく、独自の哲学が明快に規定していることは明らか。「通常の時分針なら普通、時計が下ですが、ディスクの場合は全部逆ですね」ちなみにBluの由来は、BERNHARD LEEDERER UNIVERSEに因む。神秘的と評される彼の時計だが、人間の時間は有限だからこそ尊重すべしという、確たる信念と世界観を感じさせる誠実時計でもあるのだ。

大いなる宇宙観をブランド名に託した!!

Bluの 意味ってナニ?

天文時計ではないが、時間を宇宙規模で捉える“詩人系”時計が続々と現れているのはご存知の通り。その流れが文系のウチク倒れてない証拠に、今回は時計師の立場からその哲学を追求する、Bluを東京でキャッチ!

写真/岸田克法 取材・文/南陽一浩 構成/藤崎亜弥

ブルーテクニカルディレクター バルナド・レデラー

ドイツ西部シュトゥットガルト生まれ。17歳の頃、父親から懐中時計を譲り受け、その仕組みを知りたくて時計に開眼。レストランから始めクロック製作を経て、数年前にスイスのコロンビエに会社の拠点を移し、年間約800本の腕時計を製作。



ブルー・カルテット Blu Quartett

もとは古典的なレギュレーターだが、日時分秒の4つのエレメントによる“四重奏”。7度傾角がついた分針レトログラードも特徴。リュースを手前方向に回せば分針は0ポジションにセットされ、その後にリュースを回せば、時針を独立して合わせられ時間修正ができる。自動巻き。SSケース。ケース径39mm。141万7500円。平和堂貿易☎03-3586-7363

つまみになる時計情報をクリック

Watch Headlines News

Tokai Begin 2009 Spring